

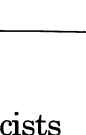



# 学位論文審査結果報告書

報告番号	北里大 乙 第1541号	氏 名	中込 啓一
論文審査担当者	(主査) 北里大学教授 (副査) 北里大学教授 (副査) 北里大学教授 (副査) 北里大学教授	厚田 幸一郎 本間 浩 吉山 友二 尾鳥 勝也	   
〔論文題目〕 Exploratory Study of Attitudes toward Work among Pharmacy Students and Pharmacists (薬学生および薬剤師の就業意識に関する探査的研究)			
〔論文審査結果の要旨〕 近年、社会では新卒者の就業意識と職業との不適合による離職が問題視されている。若手薬剤師においても例外とは言えず、離職の原因に職業不適合があることが懸念される。意欲ある薬剤師の離職は、自身のキャリア形成不全のみならず、職場の活力低下、経済的損失を招く可能性がある。海外では「薬学生や薬剤師の就業意識」に関し多くの研究がなされており、教育側（教員・学生）と実務側（薬局・病院）の双方で就業意識についての認識が共有化されているが、日本での報告は極めて少ない現状であり、薬局や病院の雇用者側も薬剤師の就業意識を十分に把握しているとは言い難い。また、海外の研究においても薬剤師の離職の可能性のある集団について調査した報告はない。このような現状を踏まえ、中込氏は、日本における先行探索的研究として、薬学生および薬剤師の就業意識に関するアンケート調査を実施し、薬学生の就業意識および薬局薬剤師と病院薬剤師の就業意識について検討した。 中込氏の研究では、まず薬学部6年生（6年制1～3期生、在籍者405人）を対象に2011年から2013年の毎年12月に就業意識調査を実施した。その結果、就職活動前の「希望進路」選択の際、「最も重視」したのは性別を問わず、「自己成長」であった。また、就職活動前「希望進路決定」において、「薬局実務実習」、「病院実務実習」及び「インターンシップ（企業）」の科目が学生に大きく影響した。 次いで、薬局薬剤師および病院薬剤師を対象に就業意識調査を実施するとともに、離職の可能			

性を示すと想定される「今後の予定」を判別する要因の探索および就業意識のクラスター解析を実施した。その結果、「職業選択理由」は、薬局薬剤師では「免許を活用したい」、病院薬剤師では「医療に関わりたい」がそれぞれ半数近い回答を示し、両者において「自己成長」の回答も高かった。離職の可能性を示す重要な共通要因として「仕事満足度」、「年齢」、「就業年数」が抽出され、「今後の予定」に対して「5年未満」を示す集団として、薬局薬剤師では、「20代後半の男性および20代と30代後半の女性」、病院薬剤師では、「30代前半の男性および20代の女性」が分類され、「満足度70点未満」であった。





これらの結果を踏まえ、中込氏は、学生の職業選択での最重要事項は「自己成長」であり、薬剤師の職業選択理由と同じ上位に位置しており、海外で上位の職業選択理由として報告されている「給料」に対し、「自己成長」は本邦の薬剤師の特徴的なポジティブな就業意識であり、どの進路においても新人教育時点からキャリア形成を念頭においた継続教育の重要性を強調している。また、「病院実務実習」と「薬局実務実習」は進路選択への影響が示唆され、実務実習に関わる教員はもとより、全ての薬剤師や職員の態度・言動、行動が学生の将来の進路選択に大きく影響することを喚起したいとしている。さらに、「今後の予定」が「5年未満」を含む集団は将来離職の可能性もあり、仕事満足度の向上がその防止策の一つと考えられ、個々の薬剤師の就業意識は多様であることを踏まえ、常にその動向を把握することが職場の運営上重要であると考察している。

中込氏の研究は、教育側と実務側が就業意識への共通認識を持つ上で、海外に比較して報告の少ない「薬学生や薬剤師の就業意識」の日本での補完的研究の役割を果たし、むしろ薬学生の進路へ影響する事項や薬剤師の就業意識のクラスタリングなどは、先行探索的研究として、また新卒薬剤師の職業選択の不適合による離職を防止する上で意義が大きいと評価できる。なお、本研究は英文雑誌（Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care Sciences, General Medicine, Pharmacy Education, Journal of General and Family Medicine）に原著論文として投稿受理されている。

以上より、本研究成果は、学生への適切な進路選択への情報提供、教育側と実務側が就業意識への共通認識を持つ上での情報発信という点において、学生の長いキャリア形成を考えた不適合による離職防止に寄与するものであり、博士（薬学）の学位授与に値すると判断し、学位審査を合格と判定した。

以上

# 最終試験結果報告書

報告番号	北里大 乙 第1541号	氏 名	中込 啓一
論文審査担当者	(主査) 北里大学教授 (副査) 北里大学教授 (副査) 北里大学教授 (副査) 北里大学教授	厚田 幸一郎 本間 浩 吉山 友二 尾鳥 勝也	   
<h2>成績</h2> <p style="text-align: center;">合格</p> <p>〔試験結果の要旨〕</p> <p>論文審査担当者は、平成30年1月30日に審査委員会を開催し、中込啓一氏に対して学位論文内容及び関連事項に関する試問を行った結果、十分な学力があるものと認め、合格と判定した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			